

一人一人の個性を大切に、実社会に近い状態で生活、学ぶことのできる環境づくりを考えます。子供たちは自分の居場所を見つけ、プリミティブな人間関係を学び、楽しい成功体験を重ね、社会へ出るための基礎を作ります。



●配置計画

○効率的な土地利用計画

- コンパクトな施設計画とすることで、余剰地を生み出し敷地の有効活用を図ります。
周辺環境を読み取り施設配置計画に生かします。
周辺に広がる自然を取り込み環境形成と教材としての活用を図ります。
既存緑地と圃場の連続をつくり教材として活かします。

○駐車場

- 道路側に配置し、歩車分離を徹底します。また、積極的に緑化し公園の自然との連続を形成するとともに冬の風の防御にも役立ちます。
駐車場越しに施設全体を把握することが可能です。

○バスターミナル

- 大型バス5台以上が駐車できるレーンとサービス送迎用のレーンを確保します。
一方通行とすることで安全性を確保します。

○体育館（防災の拠点）

- 体育館は入口正門近くに配置し、地域開放のし易さに配慮します。また、管理諸室の近くとすることで災害時の受け入れのし易さにも配慮します。

○グラウンド

- 既存運動公園との連携を考慮しグラウンドを西側に配置します。（イベント時の一般開放）

○圃場

- 日常的な管理がしやすい教室前に配置します。
東側に広がる自然と連続した環境形成に配慮します。

○安心感を与える校舎

- 豊かな自然に囲まれた中、住宅の立ち並び景観に調和するデザインを考えます。
分節された機能に合せ勾配屋根を掛けることで住宅に近いスケール感とします。

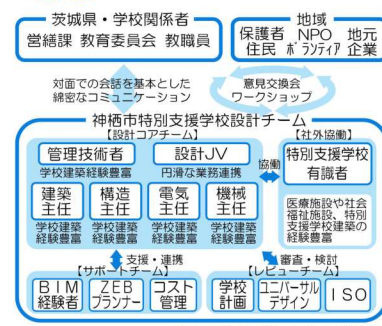


●業務実施方針

○取り組み体制

- 一みんなと共につくる
茨城県や学校関係者、地域関係者等と直接対面による意思疎通を図ります。
多様な意見を聞き、きめ細かい設計を行います。（ワークショップやヒアリングシート）
レビュー体制を整え、手戻りない設計と品質確保により予算や工期を遵守します。

○組織図



○特に重視する設計上の配慮事項

- 地元企業との連携
地域と繋がり多様な就労支援を誘発する実践的教育の場づくり。
●環境共生型の地域のシンボル
周辺環境と調和し、地域や生徒のシンボルとなる学校づくり。
●将来計画（増築可）
可変性や拡張性のある建物により柔軟に変化できる校舎づくり。
●健康、安心
生徒や地球に優しい生活環境。災害に強い安全な建物づくり。

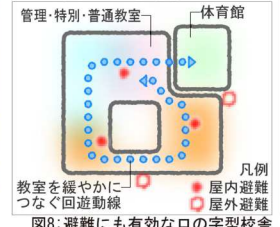
●平面計画 集団で学ぶ空間、先生の空間、子供たちの生活空間分けにメリハリをつけながらそれらを連続させることで、利用しやすく安心して生活できる環境をつくります。

○グルーピング

- 管理、特別教室、普通教室を明確にグループ分けします。
静と動の空間を区分けることで落ち着いた環境で学ぶことができます。

○回遊性

- 各教室は回遊動線によって緩やかにつながり学校を一体化します。
動線の短縮化と多方向避難を確実にし安全性を確保します。
見守りしやすい見通しの良い廊下とします。



○五感を刺激する生活環境（より実践的な学習環境）

- 学校自身が教材となるような実社会に近い状態を表現します。
教室を活動や場面ごとの空間に分けて設置する「構造化」という考えを取り入れます。

○みんなの庭イメージ

- 教室と連続した「にわ」はコミュニティと自立心を育む自由に活動できる場です。
風が通り抜け光あふれる中庭。
木工室と連続したみんなの庭。

○安心・安全

- 「沈静」「発散」と感覚刺激に働きかけて精神的安定をもたらす空間を用意します。
色彩やサイン計画など誰もが認識しやすく使いやすいユニバーサルデザインとします。
出陣の面取りや手摺の高さなど安全性に配慮。

●環境配慮とコストプラン

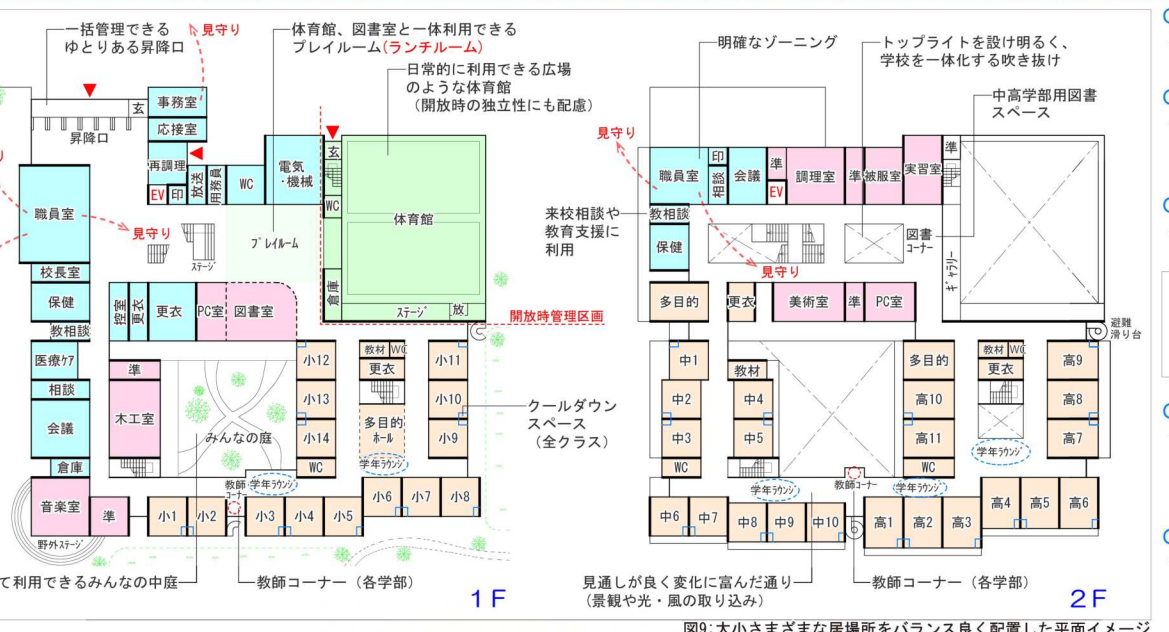
○ZEB化を目標とした環境計画

- 神栖市の太陽光、雨水、風を地産地消する建築形態や設備計画を考えます。
パッシブデザインによる省エネ化を基本とします。
高効率機器等、省エネ設備も採用し、一次エネルギー消費量を50%以上削減することを考えます。（ZEB Ready目標）
太陽光発電等の再生可能エネルギーによる創エネ化も図りZEB化を目指します。
温室効果ガスの排出削減等、SDGsに寄与するサステイナブルな建物とします。

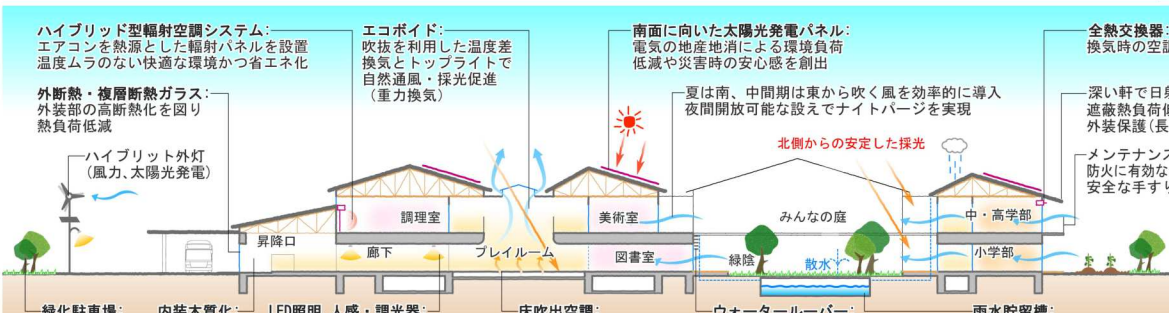
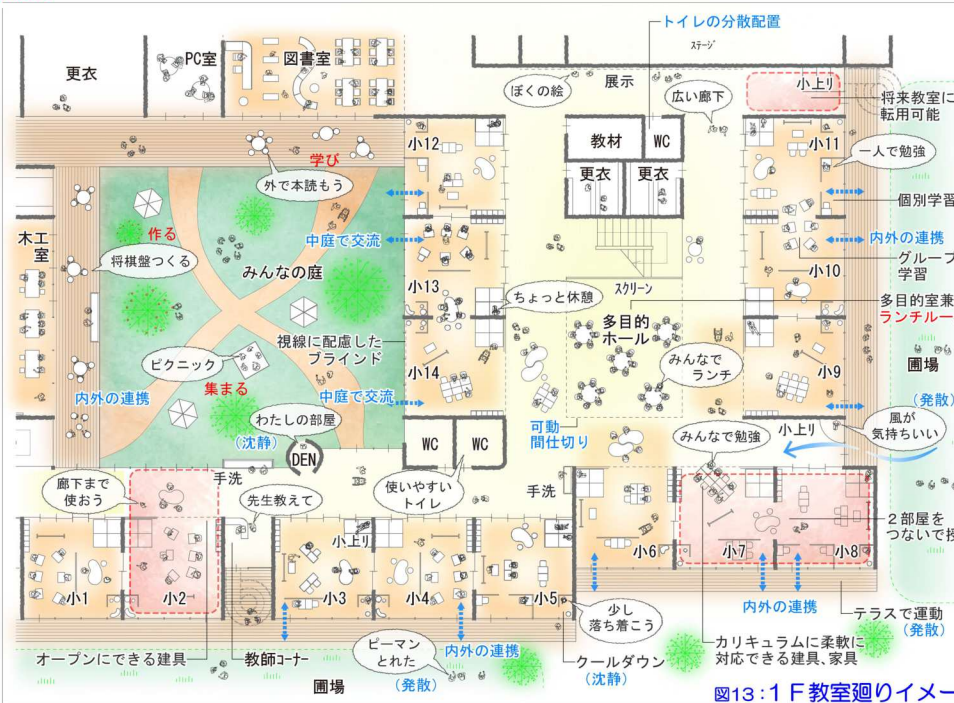
Table with 2 columns: 創エネ (Energy Creation) and 省エネ (Energy Saving). It lists various energy-saving measures like solar panels, LED lighting, and high-efficiency equipment.

○体に優しい環境づくり

- 感染症対策や生徒の感覚配慮を考慮した生活環境を考えます。（光、風、音、色に配慮）
木質化により温かみのある空間をつくり、ストレス低減に寄与します。（県産木材の活用）
輻射熱冷暖房を採用し、気流や温度差を低減します。（過敏症対策）
自然素材を採用し化学物質を低減した健康的な空間とします。（シックハウス対策）



○ブレイルーム周りイメージ



○合理的な木造とRC造の平面混構造計画

- 1階部分は、耐久性や遮音性、防振性そして将来的な可変性に配慮しRC造ラーメン架構を採用します。（災害に強い構造）
体育館にはBP材による茨城県産の大断面材の活用や、トラス架構による小径材を採用します。
2階部分は木造とRC造の平面混構造とします
平面的に分節された部分をRC造とすることで、防火区画を形成し木造室を可能とします。
また、RC部分に地震時の水平力を負担させることで耐力壁や筋交いの必要量を抑えます。

○工期短縮とコスト低減計画

- 各段階にデザインレビューを行い、社内第三者合わせ設計内容・コスト・工期を検証します。
シンプルな平面計画や構造架構により施工のし易さ、コスト縮減、工期短縮、仮設削減を考えます。
コンパクトな平面計画とすることで、外壁面積等を削減し、コスト・工期を低減します。
直接基礎形式を採用し、発生土量の抑制を図ります。

- 昇降口
・小中高をまとめて配置し管理のしやすさに配慮します。
○管理諸室
・職員室は1階と2階に分散することで細部に目の届く見守り易さ考えます。
○特別教室
・自立活動の促進を図るため教室間の連携に考慮します。
○普通教室
・子供たちの居場所として生活の匂い、空気感をつくるため、教室ゾーンとしてまとめます。
○体育館
・校舎と一体化することで日常的に利用しやすい広場とします。

○多目的ホール（教室廻りイメージ）

- 大階段を利用した発表会や体育館と連携したイベント広場、また、図書館から中庭も含めての学習の場ともなります。
学校を一体化する吹き抜け。
多目的に利用できるブレイルーム。
階段を利用した発表会。
ICT環境の整備。
木々の香りの内装。
大小様々な学習に対応できる多目的室（集会・ランチルーム）。
取り出し指導。

○将来への対応

- 2階RC床は200mm程度の厚みを確保し、あと施工アンカーの設置を可能とします。（平面計画の自由度を確保）
間仕切り変更可能。